プリンセス
小公女セーラ

第16話

『ロッティの冒険』

AR台本

企画
制作
日本アニメーション株式会社

プリンセス

小公女セーラ

第十六話『ロッティの冒険』

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン…………中西妙子
アメリア…………梨羽由記子
アーメンガード……八百板万紀
ベッキー…………鈴木三枝
ロッティ…………渡辺菜生子
ラヴィニア………山田栄子

ガートルード……佐々木るん

ジェシー……飯塚はるみ

ペネラビ……

ジェームス……郷里大輔

モーリー……向殿あさみ

カメラ	画面		音声
1	皿を洗っているベッキーの手 洗った皿を別の桶に入れる 又、洗い出すベッキー		
2	せっせと皿を洗うベッキーとたどたどしいが懸命に皿をふくセーラ		
3	ふくセーラ、皿をおく 奥で洗うベッキー ベッキー、洗いながらセーラを見る、セーラも見返して笑う ベッキーも笑って仕事を始める 二人の仕事、急に早くなる		S・E　（振鈴の音）
4	髪をかき上げ、音を聞くように 宙を見るセーラ		セーラ Ⓜ「授業が始まるんだわ……」 モーリーの声「何をモタモタやってるんだい」
5			モーリー「今のうちに生徒さんたちの部屋の掃除にかからなきゃ。」

6	仕事にかかる		(off) ダメじゃないか」 セーラ「は、はい」 ベッキー「はい」
7	階段をいそいで降りて行くジェニファとダイアナ		
8	階段をおりていくリンダとクリステル out 奥の部屋から出てくる 手前に急ぐスーザン 手前の部屋まで来るスーザン 扉をあける		ペネラビの声「あーん、まってよスーザン！」 スーザン「蝋石を忘れちゃだめよ！」 ロッティの声「あ…どこへ行ったの……
9	タンスの上を飛び上がるように探がしているロッティを見るスーザン 走って机の方へ out するロッティ		あたしの本！」 ロッティ「ない！……」
10	机の中を探し出すロッティ 手前を走り抜けるジェイン		ロッティ「本がない！ 本がないよォ！」 ジェイン「ボタンかけて！ スーザン！」

11	机の中を探すロッティ ジェインのボタンを止めている スーザン ロッティ、机の下の方へ		スーザン「ロッティ、早くしないと……」
	A・C		
11	机の下を探すロッティ おき上がりキョロキョロして手 前に走る		ロッティ「ない、ない。私の本がないよォ!」
12	ジェインの机の方へ行き探すロ ッティ ジェイン入って来る ロッティ、ジェインのベットの 方を見る 走っていくロッティ、ジェイン も走る		ジェイン「ロッティ!! あたしのところいじる のやめてよ」 ロッティ「だって!!」 ロッティ「あー!!」
13	ベットに倒れこみ本をつかむロ ッティ ジェイン来て本をひったくる		ロッティ「ああッ!!」 ジェイン「これ、私の本よ!!」

14			ロッティ「返してよ‼　私の本‼」 スーザン(off)「いくわよ‼　ジェイン‼」
15	入口に立って叫ぶスーザン ペネラビもいる　二人、走って outしていく 走りoutするジェイン		ジェイン「まって……！」
16	立ち上がるロッティ		ロッティ「あ〜ッ‼　私のだァてばー」
17	ラビニアが飛びこんでくる ロッティinして		ラビニア「何してるのよ、早くしなさいよ」 ロッティ「私の本、返してよ‼」
18	ラビニアに本を見せる ラビニアうなづく　出て行くジ ェイン		ジェイン「私のだってばァ…… ホラ……」
19	ラビニアに近づきながら、うっ たえるロッティ		ロッティ「ああん……私の本をジェインが持っ て行っちゃったよォ」
20	二階へ掃除道具を持って昇って くるセーラとベッキー		ロッティの泣き声「ワァーン」

間を抜けていくジェイン

22
立ち停る二人
顔見合わせる
いそぎ足でロッティの部屋に向かう

ロッティの泣き声「ワァーン……」
ベッキー「あの声は……」
セーラ「ロッティ?!」

23
部屋の中をのぞいて呆然

ロッティの泣き声「ワーン、私の本がないよォ……」

24

ラビニア「泣いてばかりいないで捜しなさい！」
ロッティ「だって、ジェインがもって行っちゃったんだもん」

25

ラビニア「嘘おっしゃい。あれはジェインの本よ、あんたがだらしないからこういうことになるんじゃない」
セーラ「本がないんだわ……」

26
部屋の中へとび込もうとするセーラ、腕をつかんで押えるベッキー
押えた手を見、次にベッキーを見て

セーラ「だって、捜してあげなきゃ……」

No.	画面		台詞
	そんなセーラに、いつになく厳しく首をふるベッキー		セーラ「でも……」
27	セーラに気付いて駆けよるロッティ		ロッティ「あ、セーラママだァ！」
28	セーラにとびついてくるロッティ		セーラ「ロッティ……」
29	しがみついて泣きじゃくるロッティ		ロッティ「セーラママ」
30	ロッティを見つめるセーラ		
31	見つめているラビニア、前へ出る		
32	追って来るラビニア ラビニアの叱声におびえて、増々セーラにしがみつくロッティ どうしていいか判らないセーラ ギクッと振返るセーラ		ラビニア「ロッティ。先生に云いつけても良いの！ おしおきを受けてもいいの！」 ロッティ「セーラママ、助けて！ 私を助けて！」 セーラ「ロッティ……あの……」 ミンチンの声「そんなところで何をしているんです！」

33	ミンチン		
34	氷ついたセーラとロッティ ラビニアも、あわてて言い訳する		ラビニア「あの……ロッティが本をなくして……」
35	セーラとベッキーを交互に見てうなだれていくセーラとベッキー		ミンチン「何?! 本をですって！ 大体、あなたたちが掃除する時に注意が足りないから、そんな事になるんです」
36	うつむいているセーラとベッキー		ミンチンの声「今後、気をつけなさい」 ベッキー、セーラ「はい」
37	ニヤリとするラビニア 緊張して		ミンチンの声「ラビニア！」 ラビニア「はい」
38	ミンチン		ミンチン「取あえず、ロッティを教室へ連れて行きなさい」 ラビニアの声「はい」
39	すがりつくような眼でセーラを見上げるロッティ		ラビニア「さ、ロッティ。教室へ行くのよ」

	悲しい眼のセーラ 腕をつかんで連れ去られるロッティ　どうしようもなく、うつむいたままのセーラ		
40	階段の方へ引っぱって行かれるロッティ		
41	うなだれているセーラ 心配そうに見ているベッキー ラビニアたちを見送っていたミンチン、ベッキーに 更にセーラに ミンチン階段の方へ歩きはじめる　セーラも続く		ミンチン「ベッキー、早く仕事にかかりなさい」 ベッキー「はい」 ミンチン「セーラは、私の部屋へくるように」 セーラ「はい」
42	院長室 部屋の中央まで来て立ち停る ―間― クルリといきなりふり向くミンチン		S・E　（扉の開閉音） ミンチン「何故呼ばれたか、わかってるんでしょうね」

43	困惑するセーラ、目線をおとす		セーラ「……」
44	ミンチン		ミンチン「セーラ！」
45	顔を上げて困った顔になる		セーラ「ハ…ハイ……」
46	ミンチン		ミンチン「用事のない限り、生徒たちと親しく口をきくことは許しません」
47	セーラ		ミンチンの声「今のあなたは、この学院では生徒ではないのです」
48	ミンチン		ミンチン「この学院としてのケジメがつきません。一体、誰のお蔭で食べるものや住む部屋を与えて貰っていると思っているんですか。その辺のことをようく考えて、今後あまり出しゃばらないように、
49	アメリア、ドアを開けようとして、そのまま…		
50	セーラ		
51	ミンチン		

52	セーラ	気をつけなさい」
53	気配に身を引くアメリア ドアを開けて出てくるセーラ	ミンチンの声(off)「判りましたね」 セーラの声「は、はい……」
54	消然と去るセーラ 見送るアメリア	
55	気の毒そうに見送り部屋に入る	
56	仕事をしているミンチンの傍へ 行くアメリア、じっと見つめる —間— 気付いてふり返る	ミンチン「何です？」
57	アメリア、おづおづと	アメリア「あの……少し厳しすぎるんではあり ません？」 ミンチン「何が？」
58	じっと聞いているミンチン	アメリア「あの娘は……あれほどの境遇の変化 にもじっと耐えて、良くやってるよう ですわ。 こないだも、始めておつかいに行って
59	アメリア	

			しっかりした買い物をして来たってモーリーとジェームスが……」
60	ミンチン		ミンチン「アメリア」 アメリアの声「はい」 ミンチン「余計な情をかけることは、あの子の為になりません」
61	ミンチン、アメリア見つめて		アメリア「でも……お姉さま……」 ミンチン「あの子は、生涯身よりのない子として生きて行く運命を背負ったんです」
62	ミンチンとアメリア		アメリア(off)「ええ、ですから、せめて私たちだけでも……」 ミンチン「うらむなら、あの子にぜいたく三昧をさせたあげく事業に失敗して私たちにまで借金を残して死んだ父親を恨むべきです」
63	じっと聞いているアメリア		アメリア「……」
64	ロッティたちの部屋 ベッド・メイクをしているセーラ 羽根箒をとる		

65	乱雑になっている机		
66	片づけるセーラ、にやにやしている		セーラ「ロッティたら、これじゃ本がどこにあるのか判らなくなるわ……」
67	片づけ終わってロッティの机の上のホコリをはらうセーラ その手が止まる		
68	机の奥の隙間に本がチラリ		
69	本を拾い上げるセーラ		
70	起き上がって		セーラ「まあロッティたら、あんなところに本を……」
71	教室の休み時間 それぞれ本を読んだりお喋りをしたり		生徒たち「（ガヤガヤ）」←〜〜
72			アーメンガード「どうして、どうしてって、そんなこと聞かれても……」 ロッティ「だって、アーメンガードはセーラ・

ママと一番の仲良しじゃない」

73	困り切った顔のアーメンガード	
74	振り返り見る二人	

アーメンガード「え、ええ……それはそうだけど……」
ロッティ「ねえ、セーラ・ママはどうして私のこと助けてくれなくなったの？どうして、何も言ってくれなくなったの？」
ジェシーの声(off)「言ってくれないんじゃなくて」

75	にやにやと見おろしているジェシーとガートルード	

ジェシー「言えなくなったのよ」
ロッティ「どうして？」
ジェシー「一文なしになったからよ」

76	ロッティ不思議そうに	

ロッティ「一文なしって？」

77	二人、顔を見合わせてにやりとして	
78	じっと見つめるロッティとアーメンガード	

ガートルード「馬鹿ねえ、お金がないことじゃないの」
ジェシー「だから、セーラは、もう私達とは違うの。勉強することだって、もう出来ないし

79	ジェシー、ガートルード見おろしつつ		住んでる所も汚ない屋根裏部屋なのよ」 ガートルード「それに、一日中台所で私たちの食べた食器を洗ったり、私たちのお部屋のお掃除をしたり……」
80	ロッティ		
81	ラビニア来て		ラビニア「およしなさいよ」 ガートルード「だって、ロッティがききたがるんですもの」
82	冷笑を浴びせて クルリと飜り去って行く		ラビニア「そんな子に何を話してもムダよ。何もわかりゃしないんだから……」
83	見送る二人 ベソをかきそうなロッティ 振り返り見るガートルード うつむいていくロッティ T・U		
84	台所 ジャガイモの皮むきしているベッキー		

	ジェームス、モーリーも動いている		
85	ドアの隙間からチラとのぞくロッティの頭、すぐ右の方へ移動する		
86	別のドア、そっと開いてロッティがのぞく		
87	気配に顔上げるベッキー		
88	スッとかくれる		
89	再び、うつむいて皮むきしているとのぞくロッティ 顔上げると又、スッとかくれる テーブルを迂回してドアに向かうベッキー		
90	廊下をのぞくとロッティが立っている		ベッキー「ロッティ?! 何してるの、こんな所で……」 ロッティ「（小声で）セーラママは?」

	半びらきのドアを全開してモーリー現れる		ベッキー「セーラさんは今、市場へお使いに行ってるのよ」 モーリー「セーラに何の用です？」
91	ロッティ		ロッティ「お話がしたいの……セーラママいないの？」
92	ベッキーに ロッティの手をとる 連れられて行くロッティ 遠ざかる声　見送った後、顔見合わせ困ったもんだわいと溜息つく二人		モーリー「さあさあ、ここは生徒さんの来る所じゃありませんよ」 ジェームス「院長先生に見つかったらおしおきですよ」 モーリー「さあ、ベッキー、お送りしなさい」 ベッキー「はい。……さ、お部屋へ帰りましょうね」 ロッティ(off)「ねェ……セーラママいつ帰ってくるの？……ね、セーラママ帰って来たら私が、お話したいって」 ベッキー「ええ、ええ、承知しましたよ……」
93	コベント・ガーデンマーケットの花屋 おばさんが大きい花束を渡す		女主人　「ピーター！　これ頼んだよ！

94	受取るピーター 左手へ向かう とび出して行こうとして、 あっ！　となり立ち停る	(off)　いそいで届けておくれ！」 ピーター「はいよ！」
95	重い荷物を持ったセーラがやって来る	
96		ピーター(M)「お嬢さん！」
97	大きい買物籠	
98	汗流すセーラ	
99	駆け出すピーター	
100	チラと花束を見て	ピーター「お嬢さん！　お手伝いします！」 セーラ　「ピーターじゃない。 今日は花屋さんの、お手伝いなの？」
101	花束から、花を一本抜いてセーラに差し出す	ピーター「ええ（と自分の手の花を見て）ええと……（花をみつくろって）はいこれ！」

102	荷物をおろすセーラ		セーラ「いいの、そんな事して？」 ピーター「大丈夫ですよ、お嬢さん」
103	体をおこして花を受けとって、 ピーターを見て		セーラ　「ありがとう。でもピーター、お嬢さんって誰の事かしら？」
104	喋りながら前かがみになって		ピーター「だって、お嬢さんは…… あっ！　いけねッ……セーラって呼ばなきゃいけなかったんだ……」
105	荷物をとりあげるピーター		セーラ　「ピーター……」 ピーター「は?!」
106	荷物を取返そうとするセーラ		セーラ　「助けてくれるのは 嬉しいんだけど、あなただって仕事があるんだし……」
107	ピーター、右腕を後へ引いて		ピーター「なあに、こんなおつかいいつでも…」
108	遠くで叫んでいる女主人		女主人の声「ピーター！ 早くいかないかい！」
109	セーラを見て、首をすくめるピーター 首を左右にふりながら		セーラ　「ピーターったら……」

110	院長室 アメリア入ってくる ミンチン振返って		ミンチン「皆、静かに画いていますか？」 アメリア「はい。 〜 あの子たち画さえかかせておけば静かですわ」
111	アメリア		
112	写生する生徒たち		
113	年少組も、その中で少ししか画いてない のぞきこむ、いやをする		
114	窓辺で外を見ているロッティ		
115	見ているロッティ		
116	公園横を学園に向かって帰ってくるセーラ		
117	身をのり出すロッティ		ロッティ「あっ！

118	道の向こうから来るセーラ		セーラママ！」
119	ピョンピョンはねながら手を振るロッティ はっ！　となるロッティ		ロッティ「セーラママ、セーラママ……」 ミンチンの声「ロッティ!!」
120	ミンチンとアメリア、ドアをしめて振り返る		ミンチン「何をしてるんです！」
121	ほほをふくらませてミンチンから目をそらして自分の席に		ミンチン「早く自分の席に戻って画をかきなさい！」
122	自分の席に来たが座ろうとしないロッティ		
123	うつむいているロッティの傍に来るミンチン		ミンチン「何をグズグズしてるんです！　早く画きなさい！」
124	じっと見つめるラビニア		
125	ちらりとラビニアたちの方を見		

	て不承不承に椅子に座る だが書こうとしない	
126	心配げに見守るアーメンガード	
127	心配げに見守る一同 顔を見合わせる　又、ロッティ を見る	
128	筆をにぎりしめて、口を真一文 字にしているロッティ 泣き出しそうである、こらえて いるのです	
129	ロッティを見るラビニアたち	ミンチン「さァ、どうしたのロッティ！」
130	はっと顔を上げる　にじむ泪 突然、荒々しく絵具を筆につけ る	
131	怒りを、たたきつけるロッティ 描きなぐる手	

132	驚くミンチン		
133	涙のにじむ目 描きなぐるロッティ		
134	描きなぐるロッティを見つめる 一同		
135	涙を流して描きなぐるロッティ を見つめアーメンガード		
136	呆然となるミンチン		
137	花畑で花を摘んでいる赤ずきん のロッティ		
138	木の蔭から顔出す狼		
139	びっくりして逃げ出す		
140	追ってくる狼		
141	逃げるロッティ		O・L

142	気味の悪い森の中を歩くロッティ O・L		
143	薄気味悪い森の木々　PAN←		
	O・L		
144	木が怪物に変る		
145A	走り出すロッティ　→PAN		
145B	行手の木、ミンチンに変る		
145C	おびえるロッティ 他方を見て又、驚く		
145D	ラビニアの顔から怪物に変る		
145E	林を走りぬける		
145F	行手に家の灯		
145G	ホッとするロッティ		
145H	ドア開けて入ってくるロッティ		

145	ゆっくりT・U 誰か寝ているベッド ガバと起き上がり襲いかかる狼		
146	毛布の中でもがくロッティ ガバッと起き上がり毛布を体に まきつけ震える はっとなって目をあける 目をこすり、オっかなびっくり あたりを見回す		ロッティ「う…う…助けて……!」 ロッティ「誰か来てえ……ッ!!」
147	見回すロッティ 寝ているジェイン		
148	キョロキョロとしていたが泣き そうな顔になり ベッドをおりる		ロッティ「セーラママ……」
149	寝ているジェイン		
150	ローソクに火をつけるロッティ マッチの火を吹き消す ギクッとふり返る		ジェインの声「ううん……」

	さっと机のかげへ逃げる A・C
152	身をちぢめているロッティ オソルオソル後退して A・C
153	のぞく
154	寝ているジェイン 寝返りうつジェイン
155A	ほっとしてランプに、ほやをかぶせる 手をのばして奥からビスケットを出して紙につつむ
156A	ポケットに入れてジェインをうかがい 扉の方に向かう
157A	ドアがソーッと開けられ出てくるロッティ ドアを用心深く閉める

158A	行手に続く暗い廊下と階段		
159A	ためらっていたが歩き出す		
160A	長い影をひいて階段にさしかかるロッティ		

（前半・おわり）

155B	夜 月にゆれる木の枝 セーラのところのみ灯がついている		S・E（風の音）
156B	机に向かっているセーラのカゲがゆらぐ		
157B	ゆらぐ、ちびたローソクの灯と本を読むセーラ		

158B	机の上の写真やエミリー、オカリナ、馬、ゆれる灯		
159B	本を読むセーラ ふと、物の気配に耳をすます 顔上げる あたりを恐る恐る見回すセーラ		S・E（ガサゴソ）
160B	ダンロのあたり		
161	扉とベット		
162	オソルオソル見廻しているセーラ		S・E（急にガサゴソ大きくなる）
	A・C		
163	はっとなって覗いて見る		
164	ダンロの傍の穴からのぞくネズミ		
165	はっとなるセーラ、おびえて		
166	穴からのぞき鼻をヒクヒクして		

	きょろきょろとしているネズミ チョロチョロと前に出る		
167	はっとなって後退するセーラ ガタンと音をたてるイス		
168	オドロキ後足だちになるネズミ 一瞬見つめて、さっと穴に飛び こみ姿見えなくなるネズミ 間あって覗いて見るネズミ、鼻 をひくひくさせている		
169	一瞬、はっとなるがゆるむ口許		
170	のぞき見つめているネズミ ピクピク動くヒゲ		
171	にっこりとして前へ出るセーラ		
172	前へ出る足 パッと穴の中へ逃げこむネズミ		
173	がっかりするセーラ		

No.	内容		セリフ
	大きく溜息をはく		
174	三階への階段を昇るロッティ 首をすくめオソルオソル ギョッとなるロッティ		ロッティ「セーラママ ウワッ!!」
175	踊り場にシーザー 背後に巨大な影		
176	歯をガチガチ鳴らしているロッティ		
177	小きざみにふるえているロッティの足		
178	立ち上がって、のびするシーザー		
179	おびえるロッティ		ロッティ「アワ…アワワ…ワワ……」
180	のびをしたシーザー、方向を変える		

181	三階の方に歩き登っていくシーザー ロッティ、見送っていたが気をとり直して登っていく		
182	三階の廊下 手前にくるシーザーの後を昇ってくるロッティ シーザー、振り返り鳴く		シーザー「ミャーン！」
183	あわわとなってしまうロッティ		
184	書きものをしていたミンチン、ふり返る		シーザー(off)「ミャーン」 ミンチン「う〜〜ん!!」
185	手摺に身を寄せてかくれるようにするロッティ シーザは手でしずまるように合図して身を沈めていくロッティ		ロッティ「シーッ!!」
186	にらみながら尾を振るシーザー 鳴こうとして前へ出かかる		

187	あわてるロッティ、鎮めようと懸命 奥へ行けと手で指す くるりと振り返り手前に歩き出すシーザー ほっとするロッティ、大きく溜息をつき階段を登り始める		ロッティ「セーラママのところへ行くんだから……」
188	シーザー、ゆっくりと廊下を行く ロッティ、忍び足で廊下を行く		
189	忍び足で歩くロッティ カゲもゆれながらいく		
190	こわごわと廊下を歩むロッティ キョロキョロとしながら FOLLOW		
191	二つの扉の前に来るシーザーとロッティ シーザーうづくまる ロッティ、恐る恐るあたりを見		

	廻し、おそるおそるノブに手をかける		
192	ドアゆっくりあいていく 恐る恐るのぞくロッティ		
193	くらい長い階段		
194	恐る恐る見上げているロッティ		ロッティ「セーラママ……」
195	ネズミを待っているセーラ		
196	パッと明るくなるセーラの顔 思わず身をのり出す		
197	鼻をヒクヒクさせて顔出すネズミ		
198	微笑した顔で見つめる		セーラ「……？　いらっしゃいネズミさん… ……！」
199	様子を伺っていたが… ひょいと中へひっこむ		

200	がっかりするセーラ 大きく息を吐く	セーラ「……折角、お友達になろうと思ってるのに……」
201	一段一段昇って行くロッティの足	
202	首をすぼめるように登って来るロッティ ゆらぐカゲを見ておびえる 身をすくめて ゆらぐカゲ、　壁により身をちぢめている	ロッティ「…怖くない…怖くないわ……」
203	震えているロッティ オソルオソル片目をあけて見上げる	ロッティ「怖くないの…怖くないの…助けてセーラママ…セーラママ……」
204	くらい階段	
205	うづくまりふるえている	ロッティ「怖くないの…ロッティは怖くないよ……」
206	階段の中途でうごけない	ロッティ「…セーラママ……!!」

	207	208	209	210	211	212	213
身をおこすロッティ	ゆっくりと登り始める	オソルオソル登っていく足	コワゴワと登るロッティ	登っていくロッティ	屋根うらの廊下 恐る恐るランプを突き出し覗いて見るロッティ ゆっくりと廊下に出て来て見廻す	奥をうかがうロッティ こわごわと振り返る　いまにも泣きそうな表情 呟くロッティ	オソルオソル右の方へ歩き出す
	ママ……!!」					ロッティ「…セーラママ……!!」	

	ロッティ		
214	角からのぞき見るロッティ		
215	ぼんやりと見える扉		
216	泣き出しそうなロッティ さっと前に出る		ロッティ「…セーラママ……!!」
217	ドアのノブをつかむロッティ		
218	おっかなそうにドアを開ける		ロッティ「セーラママ……」
219	物置部屋の内部		
220	部屋の中へ入ってくる 泣き出しそうなロッティ ゆっくり閉りかけるドア、最後 にバタンと音をたててしまる ふり返るロッティ　影が動く		ロッティ「セーラママどこにいるの……」 S・E　（バタン）
221	ロッティ!		ロッティ「キャーッ!!」

222	はっ！　となり耳をすませ	ロッティの声「うわーん！　セーラママァ！」
223	扉開いて飛び出してくるセーラ カイダンの方を見る はっとなって手前を見るセーラ	ロッティ(off)「セーラママ…セーラママ、わあーん、わあーん！」
224	泣いているロッティ	ロッティ「怖いよ…助けて…セーラママ…ワオーン、ワオーン!!」
225	うづくまり泣いているロッティ 扉開いて飛びこむセーラ ロッティに手をかけて抱きおこすセーラ	セーラ　「…ロッティ……!!」
226	セーラを見るロッティ やにはにしがみつくロッティ	ロッティ「…ワーオン、ワーオン!!」
227	セーラにしがみつき泣くロッティ	ロッティ「ワー、ワー、セーラママ、セーラママ……」 セーラ「ロッティー」 ロッティ「…逢いたかったの…ワーン、ワーン セーラママに逢いたかったの…ワーン、ワーン」

228	セーラ、やさしく	セーラ「…ロッティ…大丈夫よ……」
229	しがみつき泣きじゃくるロッティ	ロッティ「ワーン、ワーン……ン」
230	抱きしめているセーラ ベッキーが走って姿を見せる 急いで近よるベッキー	ベッキー「まあ…どうしたんです……?!」 セーラ「ひとり来たのよ…ロッティったら…」 ベッキー「でも、もし院長先生に知れたら…… ～ …私、送ります。みんなに見つからないうちに…私が、お送りします」
231	ロッティ、必死にしがみつき泣きじゃくる やさしくさとすセーラ とたんにピタっと泣きやむロッティ 二人、顔見合わせる	ロッティ「イヤ!!……今夜はセーラママのとこにいるの……!」 セーラ「わかったわ……もう泣かないで、騒ぐと下のミンチン先生に見つかってしまうわ」
232	しがみつくロッティ やさしく頭をなでるセーラ	セーラ「いいのよロッティ…今夜は、私のところに泊っていって……」 ロッティ「セーラママ……」 ベッキー「…お嬢様……」

			セーラ「いいのよベッキー、私が罰を受ければいいのだから……」
233	息をのむベッキー		
234	机の上のランプ		
235	ビスケットを食べている二人 声をひそめて打明ける 黙ってロッティの顔見ていたが		ロッティ「おいしい？」 セーラ「ええ、とっても……」 ロッティ「良かった。私のお土産気に入ってくれて……」 ロッティ「あのね、セーラママが、おなかすかしてたらいけないと思って持って来たの……」 セーラ「ありがとうロッティ……」
236	幸せそうなロッティ、ビスケットを頬ばり視線を移す		ロッティ「うん……」
237	ロッティの見た眼		
238			

239	見廻していたロッティを見つめて にっこりするセーラ、ロッティの手をとり セーラ、静かに目を閉じる ロッティも真似をする	セーラ「ロッティ……！　お部屋気に入って?!」 ロッティ「う…うん！」 セーラ「ロッティ…目を閉じて……」 ロッティ「ええ……?!」 セーラ「こうよ……」 ロッティ「閉じた！」
240	セーラ、目をとじたまま O・L	セーラ「（静かに話しだす）このお部屋の壁は雪のようにまっ白なの。そして壁には、ステキな画がかかってるわ。テーブルには、レースのテーブルクロスがかかっていて お花の一杯入った花瓶……そうね、それから向こうの壁には本の一杯つまった書棚があるの…… そして窓には……」
241	想像の中の部屋 O・Lで	
242	想い浮べるロッティ	ロッティ「きれいなお花の一杯ついたカーテン！」
243	目をとじたまま続けるセーラ	セーラ「そうよ、そうよ。そしてベッドにも

		ふかふかの羽根ぶとんを揃えなくちゃね……」
244	云いかけて、けげんになる ガサゴソと音がする そっと目をあけて穴の方を見て ……	ロッティ「うん、ふかふかの…… S・E（ガサゴソ） あ……」
245	セーラにしがみついて 目をあけて見るセーラ	ロッティ「ネ、ネ…ネズミ！」
246	体をおこしてセーラたちの様子を見ている	
247	ロッティ、恐怖でしがみつき足を上げていく きつく抱くセーラも、おそろしいのだ	
248	鼻をひくひくさせているネズミ 口に手をやり、かいている	
249	はっとなるセーラ…	セーラ「そうだ……！」

250	オドロキ急いで穴にもどっていくネズミ		
251	にっこりするセーラを見上げるロッティ ビスケットをロッティに示すセーラ 手前に歩くセーラ 左手の中でビスケットを割って置いてやる 立ち上がりベットの方へ行く二人		セーラ　「大丈夫よ！……お目あてはこれよ…」 セーラ　「さあ、ネズミさん。ロッティちゃんからのお土産ですよ」
252			
253	抱き合うようにして見つめる二人		
254	のぞくネズミ すぐ、ひっこむが又、出て見る チョロチョロと菓子のところへ来て一かけらを持って引っこむ		

255	二人、顔を見合わせる		ロッティ「フフ……」 セーラ「フフフ……」 セーラ「あれ……」
256	穴からのぞいているネズミ		セーラの声「まだ欲しいのかしら……」
257	ロッティ、ポケットからビスケットをとり出しベッドからおりてビスケットをひらひらさせる セーラもネズミの方をみる		ロッティ「今度は、私のをやる」 セーラ「いらっしゃい。私たちは何もしないわ。だから安心していらっしゃい」
258	ヒゲをふるわせているネズミ		
259	再び、ビスケットをヒラヒラさせる		ロッティ「言葉がわかるの？」 セーラ「さあ…でも、こっちがお友達と思えば、きっと向こうだってそう思ってくれると思うのよ」 ロッティ「ふうん……ネズミさん、ビスケットですよ」
260	ネズミ顔を出す		セーラの声(off)「ロッティ。ビスケットを床にお

			いてやりなさい」
261	おそるおそる前へ進むロッティ		ロッティ「うん……」
262	ソロソロと穴に近づいたが、遂にガマンしきれずビスケットを放り出して逃げ帰る		
264	セーラにとびつくロッティ、ふり返って見る		
265	時々、立ち停りながらチョロチョロ近づくネズミ		
266	息をのんで見守るロッティ		
267	ビスケットにとりついて運ぼうとするが重くてもてあます		
268	ニコやかに見ていた二人、はっ！となる		
269	穴の中からのぞいているネズミ		

	の奥さんと子供たち その中の一匹がとび出す		
270	一番後から奥さんネズミ出てくる　ビスケットに群がるネズミたち		
271	セーラ、ハハーンと		セーラ　「大勢、家族がいたのね」
272	時々、親たちはセーラたちの方を警戒するように見る		
273	考えて、やがて		ロッティ「ね、このネズミさんたちに名前をつけてあげない？」 セーラ「そうね……」 ロッティ「ネズミチャン」 セーラ「フフ……それもいいけど……」 セーラ「……メルはどう」 ロッティ「メル……メル……」
274	ネズミ		セーラ　「お父さまに買ってもらった本の中にあったメルキセデックと言う名前からいただいたの、それが良いわ」

275	ネズミに向かって	セーラ「今日から、そう呼ぶことにするわ。 メル、これからもよろしくね」 ロッティ「メル、メル……メルちゃん、よろし くね……」
276	残りのかけらを一匹の子ネズミ がくわえてすばやく穴の中へ、 それを追う一同	
277	顔見合わせて、ほほえむ二人	
278		セーラ「フフ……」 ロッティ「メルちゃん……可愛い!!」
279	セーラの窓の明りがきえる	
280	天窓　暗―明るくなっていく B G　O・L	S・E　(鳥の声)
281	寝ているロッティ 目をあけ、ねむそうに目をこす る	ロッティ「セーラママ?!」

282	天窓から外を見ていたセーラ、ふりむく おき上がるロッティ	セーラ「お早う、ロッティ」 ロッティ「何してるの？」
283	セーラ、頷いてかがみこむ	セーラ「ロンドンの町を見てたのよ。それに小鳥たち……」 ロッティの声「町や小鳥たちが見えるの?!」 セーラ「さあ、きてごらん」
284	反動つけて台の上に引きあげられるロッティ	二　人「よいしょ！」
285	顔出すロッティ	ロッティ「うわァ!!」
286	朝モヤの中に眠る未明のロンドン市	ロッティの声「ステキ！」
287	←ＰＡＮ　セーラ、紙包みからパン屑をとってロッティの手へ	セーラ「ロッティ、手を出してごらん……」 ロッティ「何、これ？」 セーラ「小鳥さんたちの朝のお食事よ」
288	小鳥	セーラの声(off)「ほら、待ち遠しそうにこっち見てるわ。さあ、ロッティ」

289	二人、顔見合わせて		やってごらんなさい……」 ロッティ「おいで、ほら朝ごはんですよ……」
290	集まってくる雀		
291	どんどんつかみ出してばらまく ロッティ		
292	群がる雀 まかれるパン屑		
293	顔見合わせて再び、雀を見る 抱きよせるセーラ		ロッティ「これから私もパン屑とっておくね… あ、それからメル、メル…メルちゃん にもビスケットをね」
294	雀と二人 かすむロンドンの朝		
295	屋根裏からの階段を降りてくる 二人		
296	眠っているシーザー 耳をピクッと動かし片眼を開け		

	る		
297	階段を降りるセーラの足 続いてロッティ 段宛、足をそろえながら		
298	そっとドアを開けて様子を伺う セーラ はっ！　とそちらを見る		シーザーの声「ミャーウ」
299	シーザー		シーザー「ミャーウ！」
300	ロッティもマネして そろそろ出てくる		セーラ「シーッ！」 ロッティ「シーッ！」
301	そろそろ廊下を行く二人		
302	シーザーも ロッティ、シーザーがおっかな い		
303	ミンチン先生の寝室の様子を伺う		

304	ミンチンの部屋に、ゆっくりT・U		
305	ミンチンの部屋		
306	寝返りをうつミンチン		
307	三階から二階へ		
308	ロッティの部屋へ		
309	ドア開けてのぞくセーラ のぞくロッティ　↓PAN・D シーザーのぞく		
310	寝しづまっている部屋		
311	中へ入っていくロッティ		セーラ　「おやすみ……」 ロッティ「おやすみ」
312	様子を見ているセーラ		
313	毛布をかけてねるロッティ		

314	安心して、そっとドア閉めるセーラ		
315	明るくなっていくロンドンの街		
316	雀が群がっている 見つめているセーラ T・U F・O		セーラの(M)「可愛いいロッティのためにも、がんばらなくては……ロッティの訪門で勇気づけられたのは、本当は私の方だったかも知れません……」

（第十六話・おわり）